

果樹カメムシ類情報第3号

平成27年9月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

1 チャバネアオカメムシの発生状況

- (1) 予察灯における誘殺数は、豊橋市は平年並になりましたが、新城市は少ない状況が続いています(図1)。
- (2) フェロモントラップにおける誘殺数は、豊田市、幸田町、豊川市、新城市のいずれの地域でも、少ない状況が続いています(図2)。

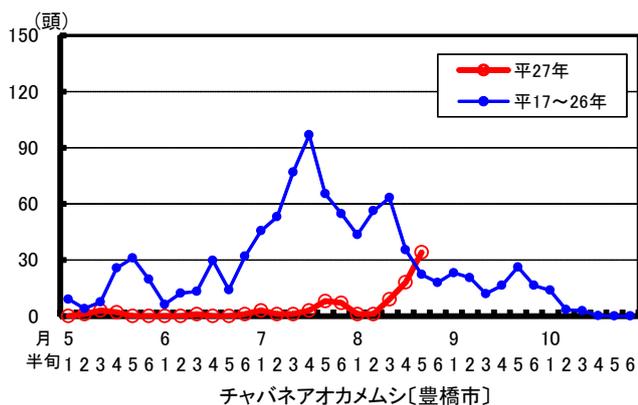


図1 予察灯における誘殺状況

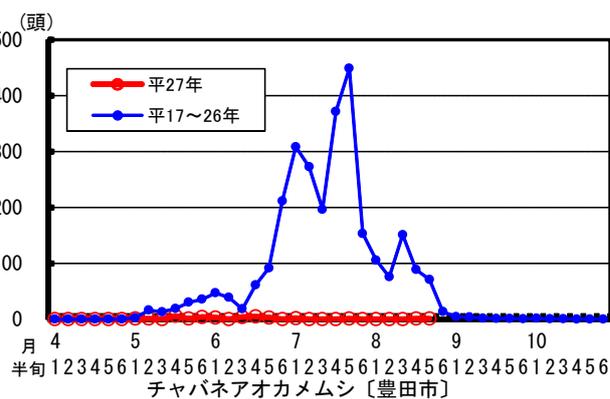


図2 フェロモントラップにおける誘殺状況

- (3) 8月中旬のヒノキ1結果枝当たりのチャバネアオカメムシの生息虫数は、成虫が0.33頭(7月下旬0.02頭)、幼虫が0.32頭(7月下旬0.13頭)で、7月下旬に比べて成虫が16.5倍に増加しました。ヒノキ球果におけるカメムシの口針鞘数が25本になると、ヒノキ球果から離脱すると言われていています。8月中旬の口針鞘数は6調査地点平均で4.7本ですが、豊橋市嵩山町では8.9本、蒲郡市神ノ郷町では10.3本と他の地域に比べてやや多い状況です(表1)。

表1 8月20日採取ヒノキ球果における口針鞘数

	調査地点					
	豊橋市 嵩山町	豊川市 東上町	蒲郡市 ¹⁾ 清田町	蒲郡市 神ノ郷町	岡崎市 明見町	幸田町 須美
1球果当たりの 口針鞘数	8.9 (8.4)	2.0 (0.1)	0.9 (5.1)	10.3 (0.3)	2.5 (1.4)	4.2 (0.2)
離脱開始予測時期	9月上旬	9月下旬以降	9月下旬以降	9月上旬	9月下旬以降	9月下旬以降

1) 調査樹変更 ()内は7月28日の口針鞘数

2 今後の発生予測と対応

- (1) 餌であるヒノキ球果が平年より多いため、果樹カメムシ類は山間部を中心にヒノキ球果を餌にして繁殖している状態です。予察灯における誘殺数から、当年世代成虫の発生量も増加してきていると予測します。

- (2) 果樹カメムシ類がヒノキ林から離脱して果樹園へ飛来する時期は、8月中旬時点のヒノキ球果の口針鞘数から、9月下旬以降となる地域が多いと予測します。そのため、9月上中旬は果樹カメムシ類の果樹園への飛来が少ない状況が続くと思われます。ただし、蒲郡市神ノ郷町及び豊橋市嵩山町では、8月中旬の口針鞘数がやや多かったため、9月上旬から果樹園への飛来が始まるおそれがあります。
- (3) 飛来時期が近づいたら、果樹園内をよく見て回り、果樹カメムシ類の飛来が増加したら表2を参考に、早急に防除しましょう。
- (4) 果樹カメムシ類は、風がない夜に飛来が急増することがあります。また、スギ・ヒノキ林近くの果樹園では、台風通過などで突発的に飛来が急増することがあるので、注意しましょう。

表2 果樹カメムシ類に対する防除薬剤

作物名	農薬名	系統
ナシ	アクタラ顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系
	アグロスリン水和剤	ピレスロイド系
	スカウトフロアブル	ピレスロイド系
	スタークル／アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系
	ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド系
	テルスターフロアブル	ピレスロイド系
	MR. ジョーカー水和剤	ピレスロイド系
カキ	アグロスリン水和剤	ピレスロイド系
	スカウトフロアブル	ピレスロイド系
	スタークル／アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系
	モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系
ミカン	アグロスリン水和剤	ピレスロイド系
	スタークル／アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系
	ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド系
	テルスターフロアブル	ピレスロイド系
	モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。